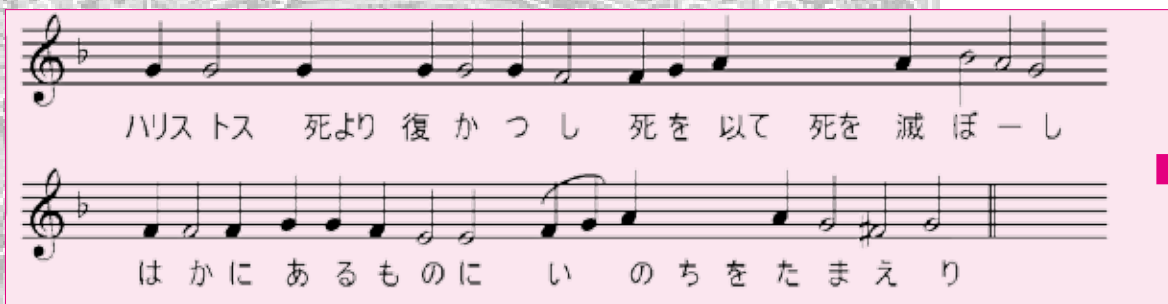




聖体礼儀

神の国への旅
—新たなる神の民の宴—

2018 大阪ハリストス正教会



ことばの礼儀（啓蒙者の礼儀）

1. 旅の始まり—目的地は神の国
2. 大連祷—教会が世界の平安を祈る
3. 三つのアンティフォン—神の国への行進
4. 小聖入—神の国への入場、神ことばとまみえる
5. トロパリ、コンダケ—今日のテーマを歌う
6. 聖三の歌—天使と共に歌う
7. ポロキメン—旧約の歌、使徒経の読みの前触れ
8. 使徒経の読み—使徒たちからの手紙を聞く
9. アリルイヤー—歓喜の歌、福音の読みへのファンファーレ
10. 福音経の読み
11. 重連祷—教会がひとりひとりのために祈る
12. 啓蒙者の連祷、啓蒙者出よ—洗礼志願者のための祈り

聖体機密（信者の礼儀）

13. 信者の連祷
14. 大聖入（ヘルビムの歌）—ささげものを宝座へ運ぶ
15. 増連祷
16. 平和の接吻、信経—主にある平安と信仰告白
17. 聖体機密のカノン（アナフォラ）—機密の晩餐
18. 常に福、万民をも—一生神女、主教、神品、信徒の記憶
19. 増連祷
20. 天にいます—神の子たちの祈り
21. 聖なるはただ一人
22. 領聖
23. すでに真の光を見—領聖感謝
24. 平安にして出ずべし—解散と派遣
25. 十字架接吻と万寿詞
26. 領聖感謝祝文

1. 旅の始まりー目的地は神の国



出発に
おくれないようにね!

聖体礼儀は旅。旅の始まりに目的地「父と子と聖神の国=神の国」が宣言される。

輔祭 君よ、祝讃せよ、

司祭 父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世に、

♪アミン

復活祭期（復活祭後昇天祭前週まで）は「ハリストス死より復活し、死を以て死を滅ぼし、墓に在るものに生命を賜えり」をアミンの後3回歌う。

2. 大連禱ー教会が世界の平安を祈る

輔祭 我等安和にして主に禱らん、

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 上より降る安和と我等が霊の救いのために主に禱らん

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の為に主に禱らん

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 この聖堂、及び信と慎しみと神を畏るる心とを以て、ここに来たる者の為に、主に禱らん

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 教會を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教ダニイル、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に禱らん

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 我が国の天皇、及び国を司る者の為に主に禱らん

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 この都邑と凡その都邑と地方の為、及び信を以てこのうちに居おる者の為に主に禱らん、

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 気候順和、五穀豊穰、天下泰平の為に主に禱らん、

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭ふ者、虜となりし者、及び彼等の救いの為に主に禱らん

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ

しゅ 主、あわれめよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命をもって、ハリストス神に委託せん

しゅ 主、なんじに

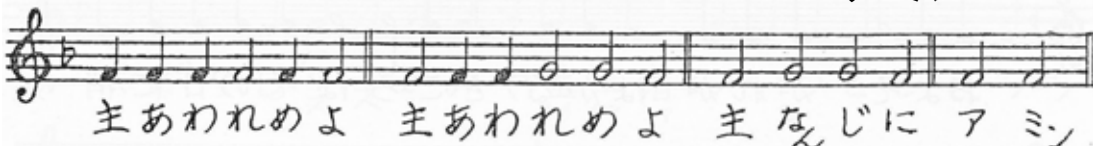
司祭 けだし、凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世に

アミン

【大連禱】
教会が世界のために祈る。世界の平和、教会のため、主教のため、為政者のため、地方のため、気候のため、苦しむ者のため…、
輔祭は教会を代表して願いを唱える。

「けだし…」
(なぜならば…)
司祭が祈りをまとめる。

「アミン」
(はい。そうです。そうします。)



3つのアンティフォン、神の国への行進。

ロシア系の教会ではアンティフォンとして102、145聖詠と真福九端(の抜粋)が歌われる。

3. アンティフォン—神の国への行進

【第1 アンティフォン】(102 聖詠 / 101 詩編の抜粋)

わがたましいや主をほめあげよ、主やなじは
霊 讃 揚

あがめほめらる、わがたましいや主をほめ
崇 讃

あげよ、わがちゅうしんやその聖なる名をほめあげよ。
揚 中 心 セイ ナ 讃 揚

わがたましいや主をほめあげよ、かれがことごと
霊 彼 志

とくの思をわするるなかれ、かれは爾がもろもろ
オン 彼 なんじ 詠

の不法をゆるし、汝がもろもろのやまいをいやす。
フ ホウ

光 えいはちちと子とせいしにきす、いまも
コオ 父 聖 神

いつも世々にアミン、わがたましいや主をほめあげよ、

わがちゅうしんや、その聖なる名をほめあげよ、主や汝は
中 心

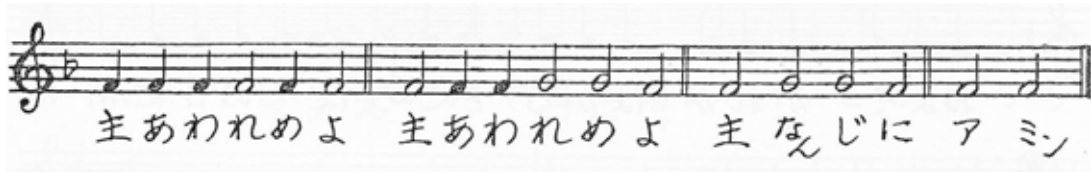
あがめほめらる
崇 讃



【小連祷】 Lessor Litany

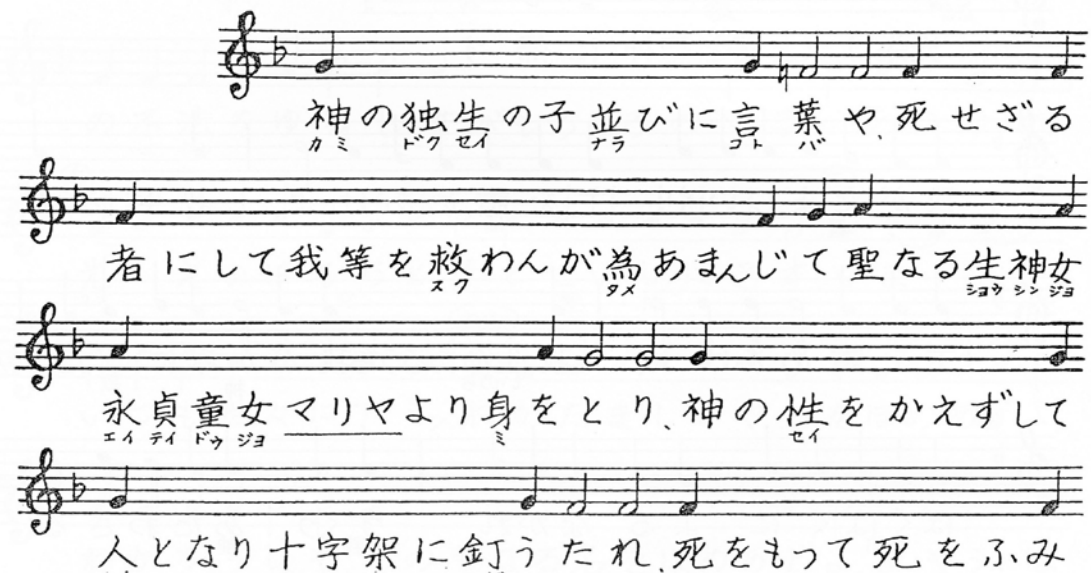
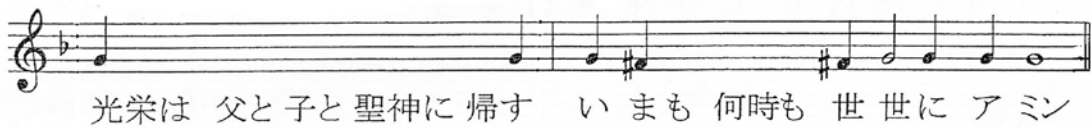
輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、
 輔祭 上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん、
 輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命をもって、ハリストス神に委託せん
 司祭 けだし、権能、及び国と権能と光榮とは、爾、父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に

しゅ
主、あわれめよ
しゅ
主、あわれめよ
しゅ
主、なんじに
アミン



【第2 アンティフォン】 (145 聖詠 / 144 詩編の抜粋) (省略)

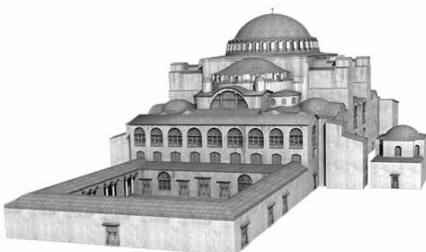
【神の独生の子】 - 教義を歌う



各アンティフォンの間に連祷が祈られ、司祭は祝文（祈りのことば）を小声で唱え、最後に「けだし」から大きな声で唱える。

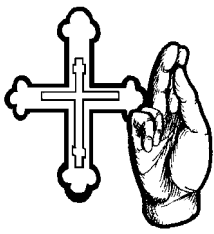
第2 アンティフォン
日本では 19 世紀ロシアの習慣で、主の祭日以外は第2 アンティフォンが省略されることが多い。

教義を歌う
神の独り子、イイスス・ハリストスが肉体をとって生まれたこと、神であって人であり、十字架上の死によって死を滅ぼしたこと、聖三者のひとつの位格であるという教義が簡潔に歌われる。ローマ皇帝ユスティニアヌスの作とされ、アンティフォンの間に挿入された。



聖堂に到着。
中庭でトロパリを歌う。

<豆知識> 昔、ビザンティンの街ではアンティフォンは教会へ向かって、街の中を練り歩く行進だった。十字行は古代ビザンティンの伝統。アンティ・フォンとは声 vs 声で、左右ふたつの聖歌隊が掛け合いで歌うスタイル。行進の途中、街の広場（フォーラム）で立ち止まり連祷が祈られた。



<豆知識>

正教会はオルトドクサ（正しい教え、正しい讃美）。教義（正しい教え）を歌う歌が随所にある。

短いものではたとえば、「光栄は父と子と聖神の名によりて聖神に帰す」は三位一体の教義を、上図のように指を折って、十字を描いて唱える。

知覚、音楽（歌）、体の動き、すべてを使って教義を身につける。

やぶりしハリスつかみや聖三者セイサンシャのいつとして、ちち
と聖神とともにさへいせらるるの主や、われら
をすくいたま え

【小連祷】 Lessor Litany

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、

^{しゅ}主、あわれめよ

輔祭 上より降る安和と我等が霊の救いの為に主に祷らん

^{しゅ}主、あわれめよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命をもって、ハリストス神に委託せん、

^{しゅ}主、なんじに

司祭 けだし、爾は善にして人を愛する神なり、我等、光栄を爾、父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

アミン、アミン

主あわれめよ主あわれめよ 主なんじに
アミンア ミン

【第3 アンティフォン】 真福九端 (マトフェイ/マタイ 5:3- 山の上の説教)

主よなんじのくににキ来たらん とき我等を思ワレラいたまオモえ、

こころの貧マツしき者モノはさいわいなり、天國テンゴクは彼等の

ものなればなり、なくものはさいわいなり。

彼等ナガサは慰エめを得んとすればなり、温オン柔ジュウなるもの

はさいわいなり、彼等ワレラは地チを嗣ツがんとすれば

なり、義ギに飢ウえかわく者モノはさいわいなり、

彼等カレラは飽アくを得エんとすればなり、憐アワれみあるものは

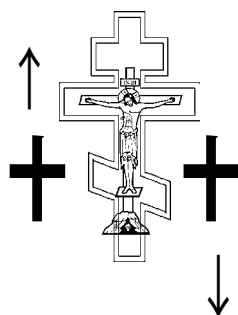
さいわいなり、彼等カレラは憐アワれみを得エんとすればなり、

こころの清キヨき者モノはさいわいなり、彼等カレラは神カミを



真福九端

冒頭に、イイススとともに十字架にかけられ悔い改めた盗賊の最後のことは「あなたの国が来るとき、私を覚えていてください (ルカ 23:38 - 43)」が歌われ、山上の説教から「真福九端 (九つの真のさいわい)」が歌われる。



<豆知識> 悔い改めた盗賊はイイススの右側であったという伝承があり、そこからロシアでは十字架の下の横棒 (足台) の右側が上方へ、左側が下方へ傾いているロシア十字架の図柄ができた。

【小聖入】

真福九端の途中、福音書を掲げた輔祭と司祭は、ロウソクを持った堂役に先導され、北門から聖所に出てくる。王門の前で立ち止まり、聖入祝文を唱え、至聖所に入る。

聖入とは門を通して「入る」ことで、入場の意味。

正教会の奉神礼では行進と「入場」が何度も行われる。

私たちの信仰生活そのものが神の国への絶え間ない前進、新しいステージへの入場である。

見んとすればなり、和へい^ワを行^ウのうものはさい

わい^ミなり、彼等^{カレラ}は神^{カミ}の子^コと名づけられんとすればなり、

義^ギのために^{キントク}窘^{クニ}逐^{タク}せらるる者^{モノ}はさいわいなり、

天國^{テンゴク}は彼等^{カレラ}のものなればなり、ひとわがために

なんじら^{ナンジラ}をののしり^{イッ}窘^{クニ}ちくし、爾等^{ナンジラ}の^{イッ}ことを偽^{イツ}りて

もろもろ^アの悪^{ゴト}しき言^バ葉^イを言^トわん時^{トキ}汝等^{ナンジラ}さいわいなり、

よろこび^アたのしめよ、天^{カミ}にはなんじら^{ナンジラ}のむくい

おおければなり



<豆知識> 今は聖職者だけが、至聖所から出て、王門を通過して至聖所に入る動きに縮小されたが、古代ビザンティンでは総主教、皇帝を先頭に、会衆全員が一斉に聖堂内に「入る」動きだった。中央門は総主教と皇帝専用の門だったので「王門」と呼ばれた。かつてコンスタンティノープルのハギア・ソフィア大聖堂にはほかに54もの門があった。

主教祈祷ではこのときまで主教は聖所中央にとどまり、司祭たちとともに入場する。かつての名残がである。

ギリシアでは聖堂入り口まで行進して、Uターンする。

5. トロパリ、コンダクー今日のテーマを歌う

【日曜日（主日）のテーマは復活—8つの復活トロパリ】のどれかひとつ

今週は何調？ 祭日は祭日のトロパリ+（コンダク）

主の復活を讃美する8つの歌（トロパリ）がその週の調に従って、毎週順繰りに歌われる。（楽譜は次ページ）



第1調

救世主や、イウデヤの人墓を封じて兵卒爾の潔き軀を守る時、爾は三日目に復活して世界に生命を賜えり、故に、天軍は爾生命を施すの主と呼んでいう、ハリストスや、光栄は爾の復活に歸し、光栄は爾の国に歸す、独り人を慈しむの主や、光栄は爾の慮りに歸す。

第2調

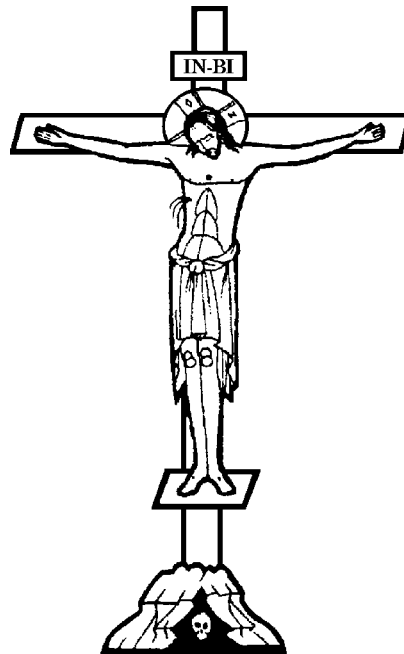
死せざる生命や、爾死に降りし時、神の性の光にて地獄を殺せり、死せし者を地下より復活せしめし時、天軍皆呼んで曰えり、生命を賜うの主ハリストス 吾が神や、光栄は爾に歸す。

第3調

天に在る者楽しめよ、地に在る者悦べよ、主は其の臂の力を顕して、死をもって死を亡し、復活の首となり、我等を地獄の腹より救い、世界に大なる憐れみを賜えばなり。

第8調

恵み深き主や、爾は高きより降り、三日の葬りを受けて我等を苦みより積き給えり、吾が生命と復活なる主や、光栄は爾に歸す。



第4の調

主の女弟子は復活の光るおとづれ音を神の使いより聞き受けて、元祖よりの定罪を振り棄て、使徒に誇りて曰えり、死は亡されハリストス神は復活して世界に大なる憐れみを賜えり。

第7調

ハリストス神や、爾は十字架にて死を亡し、盜賊のために天堂を開き、携香女の悲しみを慰め、使徒に爾が復活して世界に大なる憐れみを賜いしを伝えさせ給えり。



第6調

神使の軍、爾の墓に現れしに番兵死せる者の如し、マリヤ墓に立ちて爾の潔き体を尋ねり、爾は地獄に誘われずして地獄を虜にし、生命を賜うて処女に逢い給えり、死より復活せし主や、光栄は爾に歸す。

第5調

信者や、父と聖神と共に始なき言、吾が救いのために童貞女より生れし者を讃め歌うて拜むべし、彼甘んじてその身にて十字架に上り、死を忍び、その光栄の復活にて死せし者を復活せしめ給えばなり。





日本に正教を伝えた聖ニコライ (1836-1912) に、神へのとりなしを祈る。

♪ 光栄は父と子と聖神に帰す

(祭日のトロパリがあればここで歌う。なければ続けて)

♪ 今も何時も世々にアミン

【日本の聖人に祈る】 亜使徒聖ニコライのトロパリ

使徒とひとしく同座なるもの、忠実にして
シト ドウザ ヌウジン

神智なる^{シチ}_スのえき者、聖なる神に選ばれ
シチ ス ノ エキシャ シン イラ

たるふえ、^{シチ}_スの愛にみちたるうつわ、わか
シチ ス ノ アイニミチタルウツワ ワカ

くにの光照者、亜使徒主教聖ニコライよ
クニノ コウショウ シャ ア シト シュキョウセイ

汝の牧群のため、および全世界のために
ボクグン

生命を保つ聖三者に祈りたまえ
イノチ タモ セイサンシャ

キ

日本の現行では：

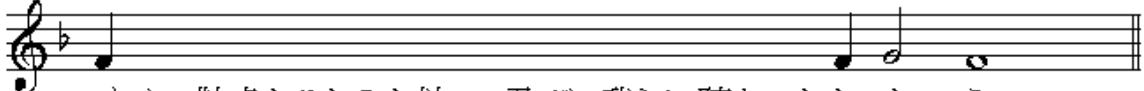
主日はその週の調のトロパリ、「光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も代々にアミン」に続いて、日本の聖人である亜使徒聖ニコライのトロパリを歌う。祭日の祭期に当たる場合は、主日トロパリの後に「光栄は・・・」祭日トロパリ、「今も・・・」亜使徒ニコライのトロパリを歌う。

<豆知識>八調 (オクトエコス・オスモグラシエ) とは

正教聖歌の基本となる詩とメロディの8つの基本パターン。歌詞 (祈祷文) を見ながらメロディ・パターンに当てはめて歌う。7世紀頃シリアあたりから広まった。ダマスクの聖イオアンは八調を整理完成したと言われる。



輔祭 主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給え（輔祭がいる場合のみ）



 主や、敬虔なるものを救い、及び、我らに聴きいれたま え

シュ ケイケン スク オヨ ワレ キ

 輔祭 （会衆をぐるっと指し示し）世々に、



「聖三の歌」はギリシア語で「トリサギオン」三つの聖なるもの。神の国で天使たちが歌う。

「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う。……王なる万軍の主（イザヤ・イサイヤ 6:3）」

私たちはいまや神の前に立ち、天使とともに歌う。

教会は神の国に上げられ、神の前で、神ことば イイスス・ハリストスのことばを聞く。

6. 聖三の歌—天使とともに歌う

別の曲もあります



 ア ミン 聖なる神 聖なる勇毅 聖なる常生の者や、

セイ カミ セイ ユウキ セイ ジョウセイ モノ

 我等を あわれめよ

 3回

 光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世々に アミン

コウエイ チチ コ セイシン キ イマ イツ ヨヨ

 聖なる常生の者や、 我等を あわれめよ

セイ ジョウセイ モノ ワレラ

 聖なる神 聖なる勇毅 聖なる常生の者や、 われらを

セイ カミ セイ ユウキ セイ ジョウセイ モノ

 あわれめよ

聖なる神＝聖なる神
 聖なる勇毅＝聖なる力
 聖なる常生の者＝
 聖なる不死なる者



<豆知識>埋葬式の時の「聖天主、聖勇毅、聖常生なる者よ」は同じ歌の古い歌詞。埋葬の時に聖体礼儀の神の国への入場と同じ歌が歌われる。写真は死者につける栄冠。ここにも聖三の歌が書かれる。



日替わりの本を見よ

7. ポロキメン 旧約の歌、使徒経の読みの前触れ

【主日ポロキメン】

輔祭 謹みて聴くべし、

主教 衆人に平安、

誦経 爾の神にも、

輔祭 睿智

誦経 ポロキメン 第1句を唱える

♪ 同じ句を歌う

誦経 第2句を唱える

♪ 第1句を繰り返す

誦経 第1句の前半を唱える

♪ 第1句の後半を歌う

日替わりの本を見よ

8. 使徒経の読み 使徒たちからの手紙、使徒たちの行動記録を聞く

輔祭 睿智

誦経 聖使徒パウエルが〇〇に達する書の読み、(聖使徒行事の読み)

輔祭 謹みて聴くべし、

誦経 (使徒経を読む)



新約聖書の中で最も早く書かれたのが使徒の手紙である。聖使徒パウエルをはじめとする使徒たちは各地の教会や信徒たちに手紙を書き送り、信仰を堅く持つようにを励ましたり、問題が起これば、指導したりしている。

使徒の手紙は教会の集まりで繰り返し読まれ、やがて、『使徒経』としてまとめられた。



9. アリルイヤー 歓喜の歌、福音の読みへのファンファーレ

本来はその週の指定された調で歌う。歌えなければ1調で代用。またはべつの曲

司祭 爾に平安

誦経 爾の神にも、

輔祭 叡智

誦経 アリルイヤー、アリルイヤー、アリルイヤー ♪アリルイヤー、アリルイヤー、アリルイヤー

誦経 第1句を唱える ♪アリルイヤー、アリルイヤー、アリルイヤー

誦経 第2句を唱える ♪アリルイヤー、アリルイヤー、アリルイヤー

1調



2調



3調



4調



5調



6調



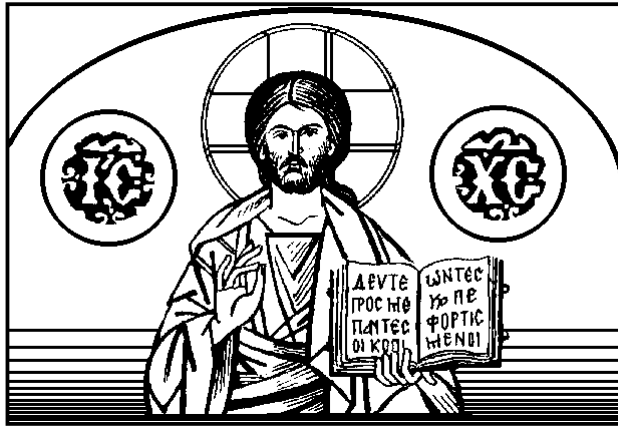
7調



8調



ポロキメンが使徒経の読みの前ぶれであるのと同じく、アリルイヤーは福音経の読みへの前ぶれ、慶びを告げるファンファーレである。アリルイヤーにも八調のメロディがあり、ポロキメンと同様に句をはさんで3回歌う。八調以外のメロディで作られたものもある(例：モスクワ調)。



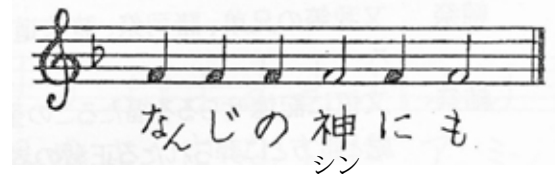
10. 福音經の読み

日替わりの本を見よ

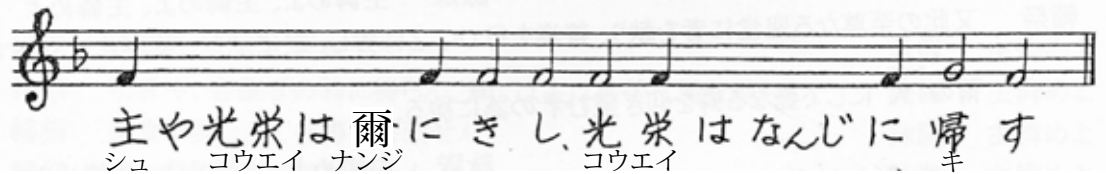
輔祭 君や、聖使徒及び福音者（ 某 ）の福音を宣ぶる者に祝福せよ、
 司祭 願くは神、光栄にして讚美たる聖使徒及び福音者（ 某 ）の祈祷によつて、爾福音を宣ぶる者に多くの力ある言を賜はん、その至愛の子我が主イイススハリストスの福音の行るるが為なり。

輔祭 アミン、

司祭 睿智、謹み立て、聖福音經を聴くべし
 衆人に平安



輔祭 （ 某 ）による聖福音經の読み

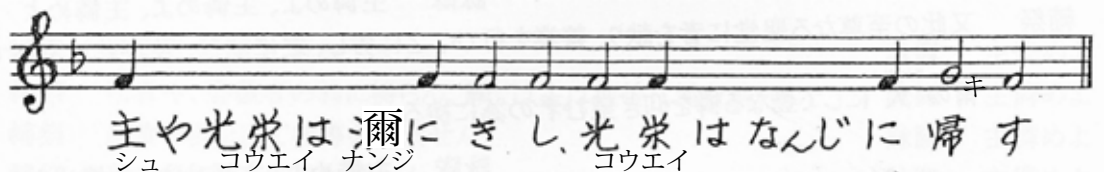


司祭 睿智、謹みて聴くべし。

輔祭 （福音經を読む）

日替わりの本を見よ

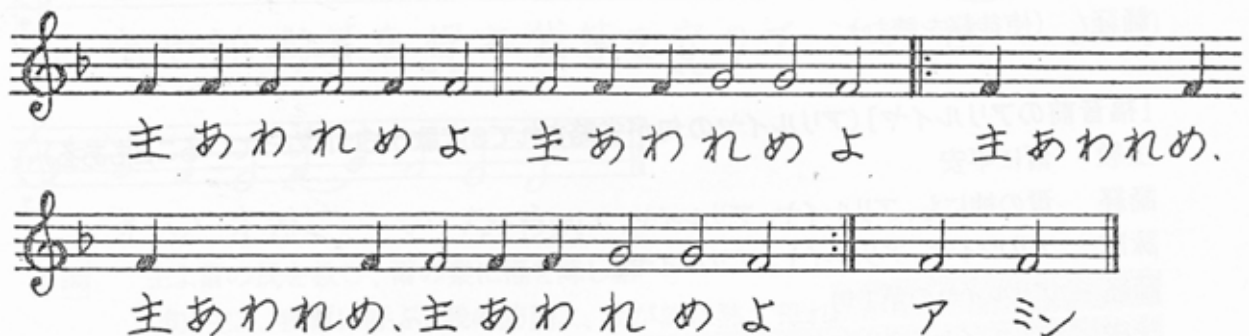
読み終わったら



説教一福音の解き明かし

11. 重連禱—教会がひとりひとりのために祈る

- 輔祭 我等皆^{たましい}霊を全うして曰はん、我等の思いを全うしていわん、^{しゅ}主あわれめよ
- 輔祭 主全能者、吾が列祖の神や、爾に禱る聆き納れて憐めよ^{しゅ}主あわれめよ
- 輔祭 神や爾の大いなる憐みに因りて我等を憐めよ、爾に禱る聆き納れて憐めよ
^{しゅ}主あわれめ、主あわれめ、主あわれめよ
- 輔祭 我が国の天皇及び国を司るもののために主に禱らん
^{しゅ}主あわれめ、主あわれめ、主あわれめよ
- 輔祭 教會を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教ダニイル、司祭の尊品、
ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に禱らん
^{しゅ}主あわれめ、主あわれめ、主あわれめよ
- 輔祭 又我等の兄弟、諸司祭、諸修道司祭、及びハリストスに於ける我等の衆兄弟の為に
禱る
^{しゅ}主あわれめ、主あわれめ、主あわれめよ
- 輔祭 又恒に記憶せらるる福たるこの聖堂の建立者、及び已に寐りし悉くの父祖兄弟、此
の處と諸方とに葬られたる正教の者の為に禱る、^{しゅ}主あわれめ、主あわれめ、主あわれめよ
- 輔祭 又此の至尊なる聖堂に者を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ち
て爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に禱る、^{しゅ}主あわれめ、主あわれめ、主あわれめよ
- 輔祭 (その他適宜)^{しゅ}主あわれめ、主あわれめ、主あわれめよ
- 司祭 けだし、爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず今も
何時も世々に
- アミン



大連禱では主に世界全体の課題に対して祈るのに対し、重連禱では個々の教会や信徒の具体的な必要の祈願を追加して祈ることができる。

啓蒙者の連禱

啓蒙者とは洗礼志願者のこと。古代で洗礼を決意してから最低3年教会に通い、神現祭の頃、その年の復活祭で洗礼を受ける「啓蒙者」として登録された。啓蒙者は使徒経や福音経などの聖書のことばを聞くことができた。ここで教会は啓蒙者のために祈る。

12. 啓蒙者の連禱 洗礼志願者のための祈り

輔祭 ^{けいもうしゃ} 啓蒙者や、主に祈るべし、
 輔祭 信者や、啓蒙者の為^{いの}に禱らん、願くは主は彼等に憐れみを垂れん、
 輔祭 真実の言を以て彼等を啓蒙せん、
 輔祭 義の福音経を彼等に啓かん、
 輔祭 彼等をその聖公使徒の教会に一にせん、
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て、彼等を救ひ憐み佑け護れよ、
 輔祭 啓蒙者や、爾等の首を主に屈めよ、
 司祭 願くは彼等も我等とともに、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、
 今も何時も世世に、

しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 なんじに
アミン

啓蒙者の退出 - 信徒だけの祈りへ

啓蒙者出よ
昔は啓蒙者は退出させられた。このあとの「信者の礼儀」は洗礼を受けた信者のみが参加できた。

輔祭 衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、
 ただ信者またまた安和にして主に禱らん、
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、
 輔祭 叡智
 司祭 蓋凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に帰す、今もいつも世世に、アミン

しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
アミン

信者の連禱

ここから第2部「信者の礼儀」の始まり。

13. 信者の連禱

輔祭 我等復又安和にして主に祈らん、
 輔祭 上より降る安和と我等が霊の救の為に主に禱らん、
 輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に禱らん、
 輔祭 この聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とをもって、ここに來たる者のために主に禱らん、
 輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を佑け救ひ憐み護れよ、
 輔祭 叡智
 司祭 我等常に爾が権柄の下に護られて、光榮を爾父と子と聖神に献ずるが為なり、
 今も何時も世世に、

しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
しゅ
主 あわれめよ
アミン



14. 大聖入

【ヘルビムの歌】－ 献げものを宝座に運ぶ

我等^{おうみつ}奥密^{おくみつ}にしてヘルビム^{かたど}を像^{かたど}り、聖三^{せいさん}の歌^{うた}を生命^{いのち}を施^{ほどこ}す三者^{さんしや}に歌^{うた}いて、今この世^{いまこのよ}の慮^{おもんばか}りを悉^{ことごと}く退^{しりぞ}くべし

別の曲もあります

わねらつっしんで、ヘルビムにのっとり、ヘルビム
 にのっとり、せいさんのうたをいのちをほど
 こすの、せい三者^{さんしや}にたてまつりて、この世の
 つとめをしりぞくべし、しりぞくべし

大聖入

正教会の礼拝では「門を通して入る」動作が繰り返され、神の国へのたゆまない歩みが象られる。

ここではあらかじめ奉献礼儀で用意されたパンとぶどう酒が宝座に運ばれ、ハリストスの十字架への献祭を記憶される。信徒の記憶した聖パンの小片も祭品とともに献げられる。

※注意

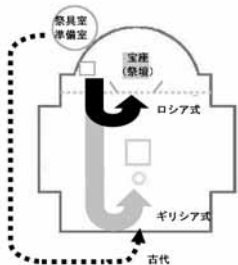
だから、大聖入が始まる前までに記憶の聖パンを至聖所に運び、記憶を行わねばならない。

「我等つつしんで」?
 それとも
 「我等奥密にして」?

ニコライ大主教は祈禱文を何度も改訂しているが、楽譜の歌詞には改訂前の古い歌詞が残る歌がたくさんある。たとえばヘルビムの「我等謹んで」、アナフォラの「親しみの捧げ物」など。

司祭 願くは主神はその国において、我が国の天皇及び国を司るものを常に記憶せん、今も何時も世世に、
 司祭 願くは主神は我等の府主教、東京の大主教、・・・・・・を常に記憶せん、今も何時も世世に、
 司祭 願くは、主神はその国において常に記憶せらるる（ 某 ）記憶せん、今も何時も世世に、
 司祭 願くは主神はその国において、爾衆正教のハリストティアニン等を常に記憶せん、今も何時も世世に、

<豆知識>かつては信徒が持ち寄った品物を聖堂わきの祭具室に保管し、輔祭が聖体礼儀に用いるパンとぶどう酒を選び整え、このときに聖堂に運んだ。人々は輔祭に向かって、記憶して欲しい人の名前を告げた。「願わくは・・・」という記憶はその名残り。



アミン、神使の^{しんし}軍の^{ぐん}見え^{にな}ずして^{たてまつ}荷^{ばんゆう}い奉^{ただ}る^よ萬有の王を戴^いかんとするに縁^よる。

ア ミン かみのなみいるつかいは見え^ずして荷^な

いたてまつる、^ばぶつ^のつかさを、^おおい^{ただ}けは

なり、ア^リルイ^ヤ、ア^リルイ^ヤ、ア^リルイ^ヤ、ア^リ

ルイ^ヤ

「いただく」は本来「受け取る」の意であるが、スラブ語に訳すときに誤訳された。

ヘルビムの歌 選択 2 スタレツカヤ

わ - - - - れら おおみ - - - - つ - に
 して ヘ - - - ルビ - - - - ムを
 かたどり ヘ - - - ルビムを かたどり
 せ - - い 三 - - - の うた - - - -
 - - を い - - の ちを ほどこす 三 者に
 うたいて 三 者に うたいて
 い - - - - - ま この世 - - の おもんぱ
 かりを こと - - - ごとく しりぞく - く べし
 しりぞく べ - し アミン

- 司祭 願くは主神はその国に於いて、我が国の天皇及び国を司るものを常に記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは主神は我等の府主教、東京の大主教、……を常に記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは、主神はその国において常に記憶せらるる(某)記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは主神はその国において爾衆正教のハリストティアニン等を常に記憶せん、今も何時も世世に

(詠) アミン



神 - 使の 軍 は 見 え ずして



にな - - いたてまつる にないたてまつる



ア - リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア - リ ル イ ヤ



ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ



ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア - - - - リ ル イ ヤ

15. 増連禱

輔祭 我等主の前に我が祈りを増し加えん、
主しゅ あわれめよ

輔祭 献げたる尊き祭品のために主にいの禱らん、
主しゅ あわれめよ

輔祭 この聖堂及び信と慎みと神を畏るる心とを以て此に来たるものの為に
主にいの禱らん、
主しゅ あわれめよ

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるがために主にいの禱らん、
主しゅ あわれめよ

輔祭 神や、爾の恩寵をもって我等を助け救ひ憐み護れよ、
主しゅ あわれめよ

輔祭 この日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、
主しゅ たまえよ

輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜わんことを主に求む、

輔祭 我等の罪と過とをなだめ赦さんことを主に求む、
主しゅ たまえよ

輔祭 我等のたまし霊に善にして益ある事、および世界に平安を賜わんことを主に求む、
主しゅ たまえよ

輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とをもって終らんことを主に求む、
主しゅ たまえよ

輔祭 我等の生命の終が「ハリストティアニン」に適ひ、やまい疾なく、きず耻なく、平安なること、
およびハリストスのおそ畏るべき審判に於て宜しきこたえをなすを賜わんことを求む、

輔祭 至聖、至潔にして、至りて讚美たる我等の光栄の女宰、生神女、永貞童女マ
リヤと諸聖人とを記憶して、我等己のおのれ身及び互いに各々の身をもつて、ならびに
ことごと悉くの我等の生命をもってハリストス神に委託せん、
主しゅ なんじに

司祭 爾のどくせいし独生子のじれん慈憐によりてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神
とともに崇め讃めらる、今も何時も世に、
アミン

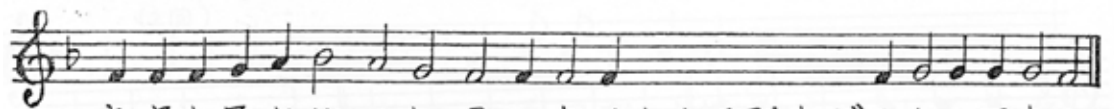
司祭 衆人に平安
なんじのしん神にも



20. 安和の接吻、信経—主にある平安と信仰告白

【安和（平和）の接吻】

輔祭 我等、互に相愛すべし、同心にして承け認めんが為なり、



ちちと子とせいしんの^いたいにして別れざるせい三者を
輔祭 門、門、敬みて聴くべし、

【信経】（信仰告白）

われ^{しん}信ず、^{ひと}一つの^{かみ}神、^{ちち}父、^{ぜん}全能者、^{てん}天と^ち地、^み見ゆると^み見え
ざる^{ばんぶつ}万物を^{つく}造りし^{しゅ}主を。

また^{しん}信ず、^{ひと}一つの^{しゅ}主、^{かみ}イイスス・^{どくせい}ハリストス^{かみ}神の^{どくせい}独生の
^こ子、^{よろずよ}万世の^{ちち}さきに^う父より^{ひかり}生まれ、^{ひかり}光よりの^{まこと}光、^{かみ}真の^{かみ}神より
の^{まこと}真の^{かみ}神、^う生まれし^{もの}者にて^{つく}造られし^{ちち}に^{いったい}あらず、^{ちち}父と^{いったい}一体
にして^{ばんぶつ}万物^{つく}かれに^{ひとびと}造られ、^{ひとびと}われら^{ひとびと}人々の^{ひとびと}ため、^{ひとびと}また^{ひとびと}われ
らの^{すく}救いの^{てん}ために^{せいしん}天より^{どうていじよ}くだり、^{どうていじよ}聖神^{どうていじよ}および^{どうていじよ}童貞女^{どうていじよ}マリ
ヤより^み身を取り^{ひと}人となり、^{ひと}われらの^{ひと}ために、^{ひと}ポンティ・ピ
ラトの^{とき}時、^{じゅうじか}十字架^{くる}にくぎうたれ、^う苦しみを^{ほう}受け^{ほう}葬むられ、
^{だいさんじつ}第三日^{せいしよ}に^{ふつかつ}聖書^{てん}に^{ちち}かないて^{みぎ}復活^ぎし、^{ちち}天^{みぎ}に^ぎのぼり、^{ちち}父^{みぎ}の^ぎ右^ぎに^ぎ座
し、^{こうえい}光栄^いを^{もの}あらわして^し生ける^{もの}者と^{しんぱん}死せし^{しんぱん}者とを^{しんぱん}審判^{しんぱん}する
ために^きまた^{くにお}来たり、^{くにお}その^{くにお}国^{くにお}終わり^{くにお}なからんを。

安和（平和）の接吻
聖体機密すなわち感謝の捧げ物を行う前に、互いのうちに和解があることを確認する。至聖所では神品同士が肩先にキスし合う。

門、門
啓蒙者はきちんと退出したか、信徒以外の者が紛れ込んでいないかを門番に確認させた。聖堂の両脇に男性用女性用のふたつの門があったため「門、門」と2回。

<豆知識>
かつて「信経」は洗礼志願者であっても明かされず、書かれた者もなく、秘密であった。洗礼直前に主教から口移しで教えられ、暗記した。

<口語試訳>

神・父について
私は一つの神を信じます。父であり、全能者であり、天と地、目に見える物、見えない物すべてを創造した主を。

神・子について
また信じます。一つの主、イイスス・ハリストスは神の独り子であり、すべての世の先に父から生まれ、光からの光、真のかみからの真の神、生まれた者であって造られたものではないこと、神・父と一体であって、万物は彼に造られたこと、我等人間のため、我等の救いのために、天からくだり、聖神と童貞女マリアから身体をとって人となり、私たちのためにポンティ・ピラトの時代に十字架に釘打たれ、苦しみを受けて埋葬され、三日目に聖書に書かれたとおりに復活し、天に昇り、神・父の右に座り、光栄をあらわして、生者と死者を審判するために再臨すること、その国は終わらないことを。

また信ず、^{しん}聖神・^{せいしん}主・^{しゅ}いのちを^{ほどこ}施す者、^{もの}父より^{ちち}出で、^い父
および^こ子とともに ^{おが}拝まれほめられ、^{よげんしゃ}預言者をもって
かつて^い言いしを。

また信ず、^{しん}一つの^{ひと}聖なる^{せい}公なる^{おおやけ}使徒の^{しと}教会を。^{きょうかい}

われ^{みと}認む、^{ひと}一つの^{せんれい}洗礼 ^{つみ}もって^{ゆる}罪の^う赦しを得るを。

われ^{のぞ}望む、^{ししや}死者の^{ふっかつ}復活、^{らいせ}ならびに^{らいせ}来世のいのちを、「アミン」。

Верую во Единого Бога Отца Вседержителя, Творца небу и земли, видимым же всем и невидимым.

И во Единого Господа Иисуса Христа, Сына Божия, Единородного, Иже от Отца рожденнаго прежде всех век. Света от света, Бога истинна от Бога истинна, рожденна, не сотворенна, единосущна Отцу, Имже вся быша. Нас ради, человек, и нашего ради спасения сшедшаго с небес, и воплотившагося от Духа Свята и Марии Девы, и вочеловечшася. Распятого же за ны при Понтийстем Пилате, И страдавша, и погребена. И воскресшаго в третий день по писанием. И возшедшаго на небеса, и седяща одесную Отца. И паки грядущаго со славою судити живым и мертвым, Егоже Царствию не будет конца.

И в Духа Святаго, Господа Животворящаго, Иже от Отца исходящаго, Иже со Отцем и Сыном споклоняема с славима, глаголющаго пророки. Во единую Святую Соборную и Апостольскую Церковь. Исповедаю едино крещение во оставление грехов. Чаю воскресения мертвых, и жизни будущаго века. Аминь.

【信経】

聖体礼儀のなかで、「われ」と単数で唱えられるのは、この信経と領聖前の祝文のみ。

ニケア、コンスタンティノーブルの公会議で確認された信仰箇条をひとりひとりが神の前で告白する。

聖神について

また信じます。聖神は主であり、生命をほどこす者で、神・父から発出し、神・父、神・子とともに拝まれほめられ、預言者によって預言されていたことを。

教会について

また信じます。ひとつの聖なる公の使徒の教会を。

洗礼について

私は認めます。一つの洗礼をもって罪が赦されることを。

復活と永遠の生命について

私は望みます。死者の復活と永遠の生命を

17. 聖体機密のカノン—アナフォラ

機密の晩餐



十字架にかけられる直前、ハリストスご自身が弟子たちに授け、ハリストスを記憶して行うように命じられた晩餐の儀式を、正教会は二千年間一度も途切れることなく行い続けてきた。

「聖なる捧げ物」はハリストスご自身。それは完全な平和の捧げ物であり、人が神に献じる唯一の十分な「讃揚の祭」。

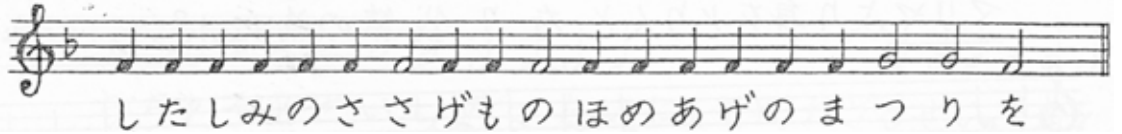
ハリストスの恵みが互いの内にあることを祈り合う。心を天に向ける。私たちは神の国、ハリストスの前にあるのだから。

【平和の憐れみ（親しみの捧げもの）】

別の曲もあります

輔祭 正しく立ち畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、

♪ 平和の憐れみ讃揚の祭を

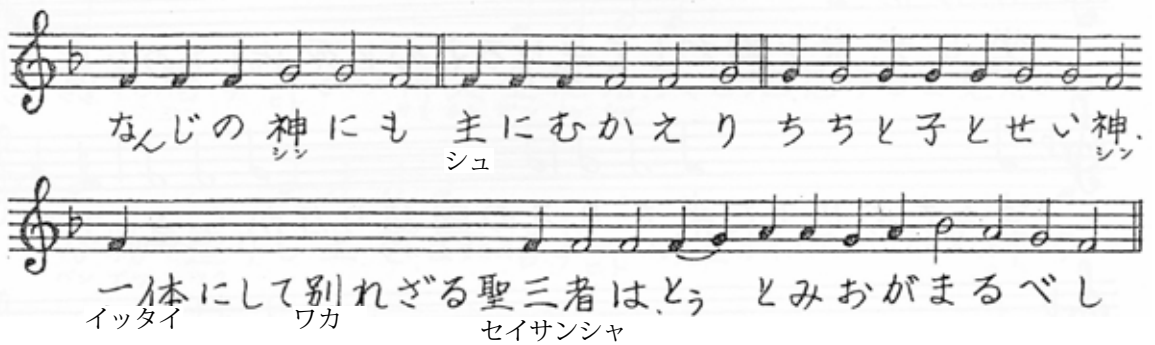


司祭 願くは我が主イイスス・ハリストスの恩、^{かみちち}神父の慈み聖神の親みは、

爾衆人とともにあらんことを ^{なんじ しん}爾の神とも

司祭 心上に向ふべし、^{しゅ む}主に向かへり、

司祭 主に感謝すべし 父と子と聖神一体にして分かれざる
三者に伏し拜むは当然にして義なり



エウレイ（ヘブライ）人への手紙

なぜならハリストスは…人間の手で造られた聖所ではなく、天そのものに入り、いまわたしたちのために神の前に現れてくださったからです。

(9:24)

ただ一度イイススハリストスの体が献げられたことにより、わたしたちは聖なる者とされたのです。

(10:10)

ハリストスは罪のために唯一のいけにえをささげて、永遠に神の右にの座につき (12)、…唯一の捧げ物によって聖なる者とされた人たちを永遠に完全なものとなさったからです (14)。

〔口語試訳（ゲオルギイ松島）〕

輔祭 正しく立ち、畏れて立ち、敬んで平安にして聖なる献物を献げよう、

♪ 安和の憐、讃揚の祭を、

司祭 我らの主イイスス・ハリストスの恵み、神・父の慈しみ、聖神の交が、あなたたちすべてと共にあるように (コリント III:13)、

♪ 神父よ、あなたのたましいとともにもあるように

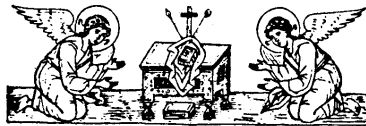
司祭 心を上に向けよう (哀歌 3:41)

♪ 主に向いました、

司祭 主に感謝しよう (聖詠 106:1)

♪ (父と子と聖神、一体にして分れざる三者への礼拝は) ふさわしく正しいことです。

司祭 爾を歌頌し、爾を讃揚し、爾を讃美し、爾に感謝し、爾が一切治むるところに於て、爾に伏し拝むは当然にして義なり、蓋爾と爾の独生子と爾の聖神は、言い難く、知り難く、見るべからず、測るべからず、永く在り、恒に変わらない神なり、爾は我等を無より有となし、陥りし者をまた起し、及び我等を天に昇らしめて、爾が来世の国を賜うに至るまで万事を行いて止めず、これ等のために、凡そ我等が知る所、知らざる所、顕れし所、顕れざりし所の我等に賜わりし諸恩のために、我等爾と爾の独生子と爾の聖神とに感謝す、又この奉事のために爾に感謝す、爾之を我等の手より領(う)くるを甘んじ給えり、然れども千々の神使首及び万々の神使ヘルビム及びセラフィム、六翼の者、多目の者、高く翔ける者、翼を具うる者は爾の前に立ちて
司祭(高声) 凱歌を歌い、よび叫びて曰く、



♪ 聖聖なる哉主「サワオフ」、爾の光栄は天他に満つ、至と高きに「オサンナ」、主の名に因りて来たる者は崇め讃めらる、至と高きに「オサンナ」)

せいせいせいなる主サワ^{シュ}お^{テンチ}天地にな^{コク}じの光 えいは
あまねしいとたかきにオサンナ^ナの^{キタ}名にて来たるものは
あがめほめらる、いとたかきにオサンナ

聖体礼儀の核心部分。アナフォラとは「上げられる」の意味である。

※注意
私たちは神の面前にある。教会が最も緊張する時。信徒は心を一つにして集中して祈る。
ロシアではこの時門を閉じて出入りを禁じることもある。
献灯その他の移動は控え、静かに祈る。

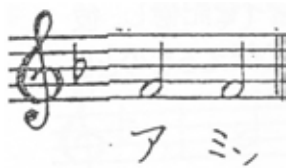
天使の軍勢とともに「聖、聖、聖なるかな」と聖三の歌を歌う。

司祭 あなたを歌いたたえ、あなたを讃め上げ、あなたを讃美し、あなたに感謝し、あなたが支配するあらゆる所で、あなたに礼拝を献げるのは、ふさわしく正しいことです。なぜなら、あなたとあなたの独り子とあなたの聖神は、言い表すことも、思いえがくことも、見ることも、把握することもできない永遠不変の神であり、私たちを無から創造し(マ4:17、2マカ17:28)、あなたから離れ落ちた私たちを再び引き上げ、そのうえ天にまで昇らせて、来るべきあなたの王国の到来まで、すべてのことを(いま、ここに)行いつくして下さいました。これらのすべてに、
…私たちがすでに知っていること、まだ知らないこと、すでに顕されたこと、まだ隠されたままであること、これらすべてに対し、私たちはあなたに、そしてあなたの独り子とあなたの聖神とに感謝します。私たちはまた、私たちのような者から今、甘んじてお受け取りになってくださるこの奉神礼(聖体礼儀)のためにも感謝します。

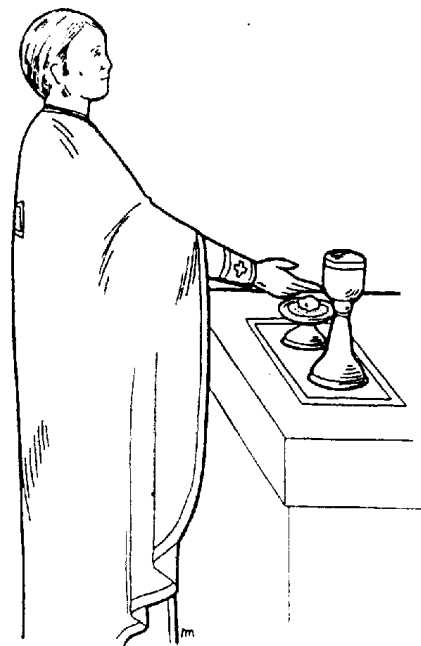
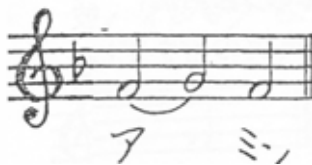
千千の天使首たち、万々の神使たち、ヘルビムとセラフィム、六つの翼を持つ者、多くの眼を持つ者、その翼で高く天翔る者たちがあなたの前に立ち並んでいるにもかかわらず、あえて私たちからお受け取りになってくださったことに感謝します。そして今、彼らは凱歌を歌い、呼び、叫びます。聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな(イサヤ6:1-3)、天軍の主よ、あなたの光栄は天地にあふれ、至と高きに「オサンナ」(救い給え、聖詠117:25)、主の名によっておいでになるお方は、崇め讃められます(マタイ21:9、マルコ11:9、ルカ19:38、イブ12:12)。至と高きに「オサンナ」、

司祭 人を愛する主宰や、我等も此の福たる軍とともによびて曰う、聖なるかな、至聖なるかな、爾と爾の独生子と爾の聖神、聖なるかな、至聖なるかな、爾の光栄は威厳なり、爾は爾の世界を愛して、爾の独生子を賜うに至り、凡そこれを信ずる者に沈淪を免れて永生を得せしむ、彼来たりて、凡そ我等に於ける定制を成全し、わたされし夜、正しく言えばみずから己を世界の生命のためにわたしし夜、その聖にして至浄無玷(きずのない)なる手にパンを取り、感謝し、祝讃し、成聖し、擘きて、その聖なる門徒および使徒にあたえていやり

司祭 (高声) 取りて食べ、これ我が体、爾等のために擘かるる者、
 罪の赦を得るを致す。



司祭 同じく晚餐ののちに爵を執りて
 司祭 (高声) 皆これを飲め、これ我の新約の血、爾等及び多くの人
 のために流さるる者、罪の赦を得るをいたす



<口語訳>

司祭 人を愛する主宰よ、我たちもこの福なる天使の軍勢とともに呼んで言います。聖なるかな、至聖なるかな、あなたとあなたの独り子とあなたの聖神、なるかな、至聖なるかな、あなたの光栄は威厳にみちています。あなたはあなたの世界を愛して、ついにご自身の獨生子をお与えになり、そのお方を信じる者を滅びから救い、永遠のいのちを得させます (イコ 3:16)。このお方がおいでになり私たちのために定められたすべての計画を成し遂げられたあの夜、…人々に引き渡された夜、いやむしろご自身を世のいのちのために (イコ 6:51) 自らお引き渡しになった夜、その聖にして、至と潔く、まったく傷なき御手にパンを取り、感謝し、祝福し、そしてさいて、その弟子にして使徒たる聖なる者たちに与えて言いました。

「取って食べなさい。これは私のからだである。あなたたちのために、あなたたちの罪の赦しのためにさかれるものだ」。信徒 アミン (そのとおり)

司祭 そして同じように晚餐の後、杯をとって言いました。「みな、これを飲みなさい。これは私の約束の血である。あなたたち、すべての人々のために、罪の赦しを与えようと流されるものだ」(マコ 26:26-28)

信徒 アミン (そのとおり)

司祭 故に我等此の救いを施す誠め、及び凡そ我等のために有りし事、すなわち十字架、墓、第三日の復活、天に昇る事、右に坐する事、光栄なる再度の降臨を記憶して（高声）爾の賜を、爾の諸僕より、衆の為一切の為に爾に献りて、



エピクレシス
献げ物の入ったデイスコスとポティールを高くかかげた後、司祭は神聖神が聖祭品に降り、ハリストスを記憶して主の尊体尊血に聖変化するように祈る。

エピクレシス（訴え、祈願）とよばれる聖神の降臨を願う祈りは非常に重要な祈りで、信徒は心一つに祈る。大鐘が鳴らされる。

司祭 我等復爾に此の靈智なる無血の奉事を献じて、願い祈り切に求む、爾の聖神を我等および、このそなえたる祭品に遣し給へ、第三時に爾の至聖神ヲ爾の使徒に遣わしし至善の主や、これを我等より取り上ぐることなかれ、なお我等爾に祈る者のうちに、これを新たにせよ
神や、潔き心を我に造り、正しき^{たましい}靈を我のうちに改め給え。「第三時に・・・」
我を爾の^{かんばせ}顔より^お逐うことなかれ、爾の聖神を我より取り上ぐることなかれ。「第三時・・・」

輔祭 君や、聖餅（パン）に祝福せよ、

司祭 この餅をもって、爾のハリストスの尊体と成し、

輔祭 「アミン」君や、聖爵^{しやく}に祝福せよ、

司祭 この爵中のものをもって、爾のハリストスの尊血と成し、

輔祭 「アミン」君や、二つの物に祝福せよ、

司祭 爾の聖神を以て之を変化せよ、 輔祭 「アミン」「アミン」「アミン」

だからこそ私たちは、この救いを与える主の戒め、また私たちのためになされたすべてのこと、すなわち十字架、墓、第三日の復活、天に昇ること、父に右にお座りになったこと、そしてその再臨を記憶して、あなたの賜をあなたの僕たちから、すべてのために、一切のためにあなたに献げます。

♪ 主よ、あなたを崇め歌い、あなたを讃め揚げ、あなたに感謝し、おお、私の神よ、あなたに祈ります、

司祭またこの靈智なる無血の礼拝を献げ、願い祈り、切に求めます
あなたの聖神を私たちとここに供えられた祭品におつかわしてください。

第三時（10時頃）にあなたの聖神をあなたの使徒に遣わされた最も善なる主よ、これを我等より取り上げないでください。なお、我等、あなたに祈る者をそのうちにおいて新たなものにしてください。（繰り返す）

輔祭 君よ、聖なるパンに祝福せよ、

司祭 このパンをあなたのハリストスの尊い体となし

輔祭 「アミン」君よ、聖なる杯に祝福せよ、

司祭 この杯にあるものをあなたの尊い血となし

輔祭 「アミン」君よ、二つの物に祝福せよ、司祭あなたの聖神によってこれを変化せよ、

輔祭 「アミン」「アミン」「アミン」

輔祭 正しく立ち畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、

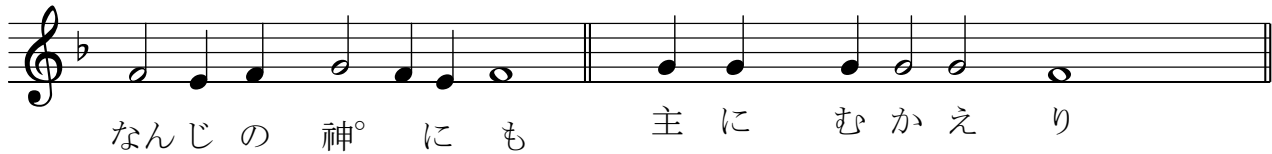


司祭 願くは我が主イイス・ハリストスの恩、神父の慈み^{かみちち}聖神の親みは、爾衆人と偕に在らんことを

(詠) 爾の神にも

司祭 心上に向ふべし、

(詠) 主に向かへり、



司祭 主に感謝すべし



司祭 爾を歌頌し、爾を讃揚し、爾を讃美し、爾に感謝し、爾が一切治むるところに於て、爾に伏し拝むは当然にして義なり、蓋爾と爾の独生子と爾の聖神は、言い難く、知り難く、見るべからず、測るべからず、永く在り、恒に変らざる神なり、爾は我等を無より有となし、陥りし者をまた起し、及び我等を天に昇らしめて、爾が来世の国を賜うに至るまで万事を行いて止めず、これ等のために、凡そ我等が知る所、知らざる所、顕れし所、顕れざりし所の我等に賜わりし諸恩のために、我等爾と爾の独生子と爾の聖神とに感謝す、又この奉事のために爾に感謝す、爾之を我等の手より領くるを甘んじ給えり、然れども千々の神使首及び万々の神使ヘルビム及びセラフィム、六翼の者、多目の者、高く翔る者、翼を具うる者は爾の前に立ちて司祭(高声)凱歌を歌ひ、よび叫びて曰く、



至とたかきに オサンナ 主の名によって
 来たるものは あがめ讃めらる
 至とたかきに オサンナ

司祭 人を愛する主宰や、我等も此の福たる軍と偕によびて曰う、聖なる哉、至聖なる哉、爾と爾の独生子と爾の聖神、聖なるかな、至聖なるかな、爾の光栄は威厳なり、爾は爾の世界を愛して、爾の独生子を賜うに至り、凡そこれを信ずる者に沈淪を免れて永生を得せしむ、彼来りて、凡そ我等に於ける定制を成全し、付されし夜、正しく言へば親ら己を世界の生命のために付し夜、其聖にして至浄無玷なる手に餅を取り、感謝し、祝讃し、成聖し、撃きて其聖なる門徒及び使徒に予へて曰へり

司祭(高声)取りて食へ、是我が体、爾等の為に撃かるる者、罪の赦を得るを致す。(詠) アミン

司祭 同く晚餐の後に爵を執りて

司祭(高声)皆之を飲め、之我の新約の血、爾等及び衆くの人々の為に流さるる者、罪の赦しを得るを致す、

(詠) アミン

アミン ア - ミン

司祭 故に我等此の救いを施す誠め、及び凡そ我等のために有りし事、すなわち十字架、墓、第三日の復活、天に昇る事、右に坐する事、光栄なる再度の降臨を記憶して

司祭(高声)爾の賜を、爾の諸僕より、衆の為一切の為に爾に献りて、

主よ、 なんじを あがめ うた い
 なんじを 讃め 揚げ なんじに 感謝し
 わが か - み や なんじに い の - - る



<記憶>

「私の記念としてこのように行いなさい（ルカ 22:19）」というハリストスのことばどおり、パンとぶどう酒がハリストスの記憶のために献げられる。

ハリストスを記憶し、ハリストスにあって、ハリストスを通してすべてを献じられ、教会は聖神に満たさる。

ハリストスにあるすべてのことと、すべての人（万民）、ことに至聖なる生神女マリヤ、とすべての聖人を記憶する。

18. 常に福 万民をも 生神女、主教、神品、すべての信徒の記憶

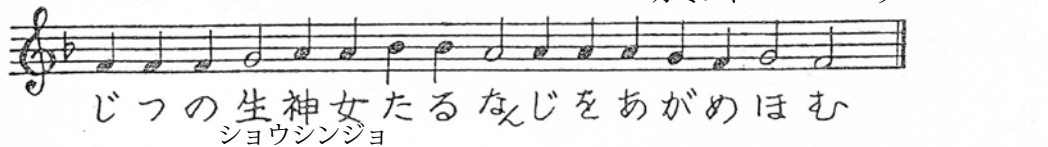
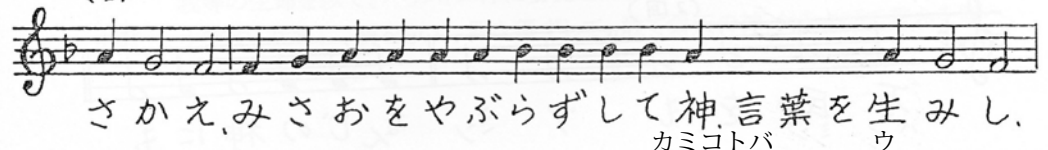
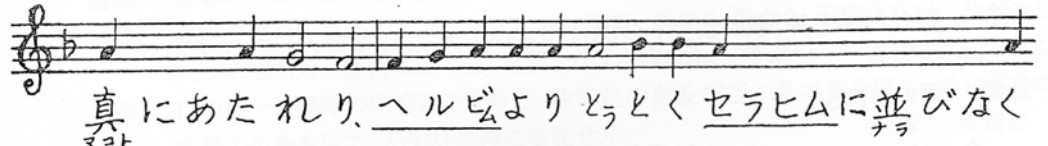
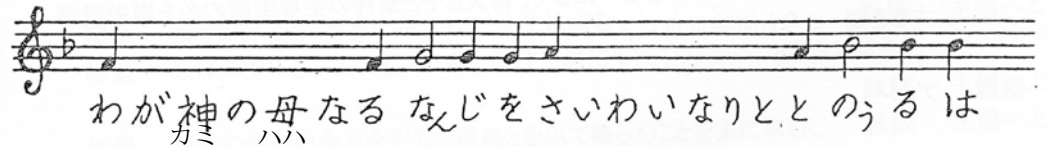
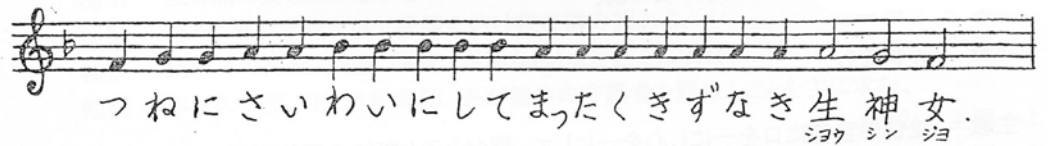
復活祭期（復活祭後昇天祭前週まで）は「神の使い」を歌う。大斎、大祭日も別の歌。

輔祭 聖なる君や、我を記憶せよ、

司祭 主・神は其の国に於て、恒に爾を記憶せん、今も何時も世世に、

輔祭「アミン」

司祭 願くは此は領くる者の為に、霊の警醒となり、諸罪の赦となり、爾が聖神の体合となり、天国を得ることとなり、爾に於ける勇敢となり、審察或は定罪とならざらんことを、またこの霊智なる奉事を、信を以て寝りし元祖・列祖・太祖・預言者・使徒・伝道者・福音者・致命者・表信者・節制者、及び凡そ信を以て終わりし義なる霊のために爾に献ず、ことに至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤの為、



司祭 願くは、これは領ける者のために霊のたえざる覚醒、諸罪の赦しとなり、あなたの聖神との交わりとなり、天の国の完成となり、あなたの前にひるまずに立たせる、おびえからの解放となり、裁きと断罪とはなりませんように。またこの霊智なる礼拝を、信仰をもって眠りについた元祖・列祖・太祖・預言者・使徒・伝道者・福音者・致命者・表信者・節制者、及び信仰をもってこの世の命を全うしたすべてのただしい霊のために、あなたに献げます。とりわけ、至って聖にして至って潔き、至って祝福された私たちの光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤのために、

♪ 常に祝福され、全くきずのない生神女、わたしたちの神の母であるあなたを称えるのは全く正しいことです。ヘルビムより尊くセラフィムと同じように栄え、貞操をやぶらずに神ことばを生んだまことの生神女であるあなたを崇めほめます。

司祭 聖預言者・前駆授洗イオアン、光栄にして讚美される聖使徒、(当日記憶される聖「某」)、およびあなたの諸聖人のために献げます。神よ、彼らの祈祷によって私たちを顧み、また永遠のいのちへの復活の望を懐いて寝りについたすべての者を記憶して、彼らをあなたの顔の光の照す所に安息させてください。またあなたに祈ります。主よ、あなたの真実の言を正しく伝える正教会のすべての主教職にある者たち、すべての司祭職にある者たち、ハリストスにあって奉仕する輔祭たち、及びすべての神品を記憶してくだ

司祭 聖預言者・前驅授洗イオアン、光栄にして讚美たる聖使徒、(当日記憶をなす所の聖()、及び爾が諸聖人の為に献ず、神や、彼等の祈祷に因りて我等を顧み、並に凡そ永生の復活の望を懐きて寝りし者を記憶して、彼等を爾が顔の光の照す所に安息せしめ給へ、又爾に禱る、主や、爾が眞實の言を正しく伝うる正教者のおよその主教品、およその司祭品、ハリストスに因る輔祭品、および悉くの神品を記憶せよ、又此の靈智なる奉事を、全世界の為、聖・公・使徒の教会の為、潔淨にして尊く生を度る者の為、我が國の天皇及び國を司る者の為に爾に献ず、主や、彼等に泰平の国政を賜え、我等も彼等の平和により、凡の敬虔と潔淨とをもつて、恬静安然にして生を度らんが為なり、主や、殊に教会を司る尊貴なる(主教)を記憶し、彼等を平安・無難・尊貴・壮健・長寿なる者、及び爾が眞實の言を正しく伝うる者として、爾の聖なる教会に与え給え。

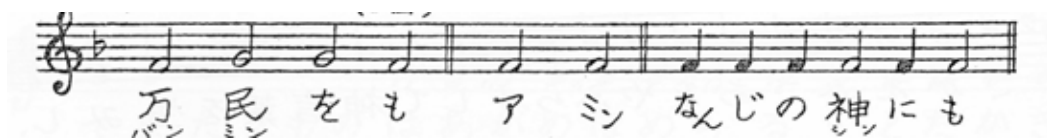
万民をも

司祭 主や、我等が居る所のこの都邑とおよの都邑と地方、および信をもつてこの中に居る者を記憶せよ、主や、航海する者、旅行する者、病を患ふる者、艱難に遭ふ者、虜となりし者、および彼等の救いを記憶せよ、主や、爾の諸聖堂に物をたてまつり、善業を行う者、および貧者を記念する者を記憶し、および我等衆人に爾の憐を垂れ給え、ならびに我等に、口を一にし心を一にして、爾父と子と聖神の至尊至嚴の名を讚栄讚頌するを賜へ、今も何時も世世に、

アミン

司祭 願わくは大なる神、我が救主イイスス・ハリストスの憐みは、爾衆人とともにあらんことを

爾の神にも



さい。またこの靈智なる礼拝を、全世界のため、聖・公・使徒の教会のため、純潔で聖なる生を生きる者のため、我が國の天皇及び國を司る者のためにあなたに献げます。主よ、彼らに國家の平和を与えてください。私たちが彼らのもたらす平和により、すべての敬虔と潔淨とをもつて平穩で安らかな一生を過ごすためです(テモテ前 2:1-2)。主よ、とりわけ教会を司る尊貴なる(主教「某」)を記憶し、彼等を平安・無難・尊貴・壮健・長寿なる者、およびあなたの眞實の言を正しく宣教する者として(テモテ後 2:15)、あなたの聖なる教会にお与えください。

♪ すべての人々をも、

司祭 主や、我々が住まうこの町とすべての町と地方、および信仰をもつてここに立つ者を記憶せよ、主よ、航海する者、旅行する者、病を患ふる者、艱難に遭ふ者、虜となっている者、および彼らの救を記憶せよ、主よ、あなたの聖堂の美のために物を献げ、善き業を行ふ者、および貧しい人々を顧る者(ガラティア 2:10)を記憶し、及び私たちがすべてにあなたの憐を垂れてください。ならびに我たちに、口を一にし心を一にして(コリ 15:6)、あなた、父と子と聖神の至尊至嚴の名を讚栄讚頌させてください、今も何時も世世に、

♪ 「アミン」

司祭 大いなる神、私たちの救主イイスス・ハリストスの憐れみは、あなたたちすべてとともに在りますように(テト 2:13) ♪ あなたの神とも、

19. 増連禱

信仰の一致と聖神との交わりを求め、自分とお互い、すべての私たちの生命をハリストス神に委ねることを宣言し、勇気を持って、罪を得ることなく、あえて天の神を「おとうさん」と呼ばせてくださいと祈り、天主経を唱える。

輔祭 我等諸聖人を記憶して復又安和にして主に祈らん ^{しゅ}主 あわれめよ
輔祭 已に献ぜられ及び聖にせられし尊き祭品の為に主に禱らん ^{しゅ}主 あわれめよ
輔祭 人を愛する我が神が、これをその聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報いて、神妙の恩寵と聖神^oの賜とを降すがために禱らん、 ^{しゅ}主 あわれめよ
輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん、 ^{しゅ}主 あわれめよ
輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 ^{しゅ}主 あわれめよ
輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 ^{しゅ}主 たまえよ
輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、
輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む ^{しゅ}主 たまえよ
輔祭 我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、
^{しゅ}主 たまえよ
輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、
^{しゅ}主 たまえよ
輔祭 我等の生命の終が「ハリストティアニン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、
^{しゅ}主 たまえよ
輔祭 信の同一と聖神の体合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、ならびに悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 ^{しゅ}主 なんじに
司祭 主宰や、我等に、勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神・父をよびて言ふを賜へ、

<ギリシア語> Πάτερ ἡμῶν, ὁ ἐν τοῖς οὐρανοῖς· ἁγιασθήτω τὸ ὄνομά σου ἐλθέτω ἡ βασιλεία σου· γενηθήτω τὸ θέλημά σου, ὡς ἐν οὐρανῷ καὶ ἐπὶ τῆς γῆς. Τὸν ἄρτον ἡμῶν τὸν ἐπιούσιον δὸς ἡμῖν σήμερον· καὶ ἄφες ἡμῖν τὰ ὀφειλήματα ἡμῶν, ὡς καὶ ἡμεῖς ἀφίεμεν τοῖς ὀφειλέταις ἡμῶν· καὶ μὴ εἰσενέγκῃς ἡμᾶς εἰς πειρασμόν, ἀλλὰ ῥῦσαι ἡμᾶς ἀπὸ τοῦ πονηροῦ.

<ルーマニア語> Tatăl nostru, Care ești în ceruri, sfințească-se numele Tău, vie împărăția Ta, făcă-se voia Ta, precum în cer așa și pe pământ; pâinea noastră cea spre ființă dă-ne-o nouă astăzi, și ne iartă nouă greșelile noastre, precum și noi iertăm greșișilor noștri, și nu ne duce pe noi în ispită, ci ne izbăvește de cel rău.

<英語> Our Father, who art in the Heaven, hallowed be Thy name, Thy Kingdom come, Thy will be done on earth as it is in heaven, Give us this day our daily bread, and forgive us our debts, as we forgive our debtors; and lead us not into temptation, but deliver us from the evil one.

20. 天主經 神の子とされた者たちの祈り



天にいます我等のちちや、願わくは、**爾**の名は聖
テン ワレラ ネガ ナンジ ナ セイ

とせられ、**爾**の国は来たり、汝の旨は天に行なわるる
ナンジ クニ キ ムネ オコ

がごとく地にも行なわれ、わが日用の糧を今日我等に
チ オコ コケヨウ カテ コンコチ ワレラ

あたえたまえ、我等に債あるものを我等許すがごとく、
ワレラ オイヌ エル

我等の債を許したまえ、我等を誘いに導かず、なお
ワレラ オイヌ エル ワレラ イダナ ミシビ

我等を兇悪よりすくいたまえ
ワレラ キョウアク

私たちはハリストスによって、神の子たちとされ、神を「父」と呼びうるものとされた。神を親しく「お父さん」と呼ぶ者たちが神との交わり（領聖）に入る。

<口語訳>

おとうさん、天におられる、あなたの名は聖とせられ、あなたの意志が天に行われるように地でも行われますように。日々のパン（ご聖体）を今、私たちにください。私たちに負債のある者を赦しますから、私たちの負債を赦してください。私たちに試練にあわせないように、また悪から救い出してください。

<スラブ語>

Отче наш Иже еси на небесех
オツチエ ナーシュ イゼ イエスイ ナ ニエベ セーツ

Да святится имя Твое, да приидет Царств Твое,
ダ スヴァチツァ イミヤ トウヴォイエ ダ プリидиЕц ЦарлствВиЕ ТоуВоИЕ

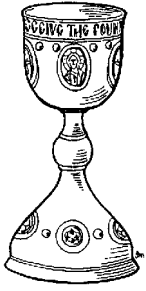
да будет воля Твоя, яко на небеси и на зем ли
ダ БрудиЦь ВоляТвоЯ Яко На Небеси И На Зем Ли

Хлеб наш на сущный даждь нам днесь
Флеб Наш Сушныи Дадь Нам Днесь

и остави нам долги наша, якоже и мы оставляем долги ком на-шим
И Остави Нам Долги Наша Якоже Имь Остави Нам Долги Ком На-Шим

и не введи нас во искушение, но избави нас от лукаваго.
И Не Введи нас Во Искушение, Но Избави нас От Лукаваго

【領聖】



天主經を唱えた後、神の子たちはご聖体を受ける。司祭はもう一度ハリストスにある平安を人々に祈り、領聖に相応しくなるように互いに祈り合い、頭をかかめる。

罪のない聖なる者はハリストスただ一人だが、聖なる体と血は、私たちが聖なる者だからではなく、全くの恵みとして与えられる。

21. 領 聖

司祭 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

アミン

司祭 衆人に平安、

なんじの神しんにも

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

主なんじに

司祭 (高声) 爾が獨生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讃揚せらる、今も何時も世世に、

アミン

司祭 主イイスス・ハリストス我等の神や、爾の聖なるすまいと爾が国の光栄の宝座よりかえりみ給え、上には父とともに座し、ここには見えずして我等とともに居る者や、来たりて我等を聖にし、爾の権能の手をもって、爾が至浄の体と至尊の血とを我等に授け、また我等をもって衆人に授けたまえ。

21. 聖なるはただ一人

輔祭 謹みて聴くべし、

司祭 (司祭聖ポティールを挙げて、高声) 聖なる物は聖なる人に、

エホ 王はの御物は王はのハレ

聖なるはただひとり 主なるはただひとり 神シユ父カミのチナ

光コウ栄エイをあらわす イイスス分フとトなり アミン

祭日には祭日の領聖詞がある。



1. 天より主を讃め揚げよ、至高きに彼を讃め揚げよ
2. その悉くの天使よ、彼を讃め揚げよ、その悉くの軍よ、彼を讃め揚げよ
3. 日と月よ、彼を讃め揚げよ、悉くの光る星よ、彼を讃め揚げよ
4. 諸天の天と天より上なる水よ、彼を讃め揚げよ。
5. 主の名を讃め揚ぐべし、蓋彼言いたれば、すなわち成り、命じられたれば、すなわち造られたり、
6. 彼はこれを立てて世々に至らしめ、則を与えてこれを踰えざらしめん。
7. 地より主を讃め揚げよ、
8. 大魚と悉くの淵よ、主を讃め揚げよ、
9. 火と霰雪と霧、主のことばに従う暴風よ、主を讃め揚げよ
10. 山と悉くの陵、果物の樹と悉くの柏香木よ、主を讃め揚げよ
11. 野獣と諸々の家畜、匍う物と飛ぶ鳥よ、主を讃め揚げよ
12. 地の諸王と万民、牧伯と地の諸有司、少年と処女、翁と童は、主の名を讃め揚ぐべし
13. 蓋惟その名は高く挙げられ、その光荣は天地に遍し
14. 彼はその民の角を高くし、その諸聖人、イスライリの諸子、彼に親しき民の栄を高くせり

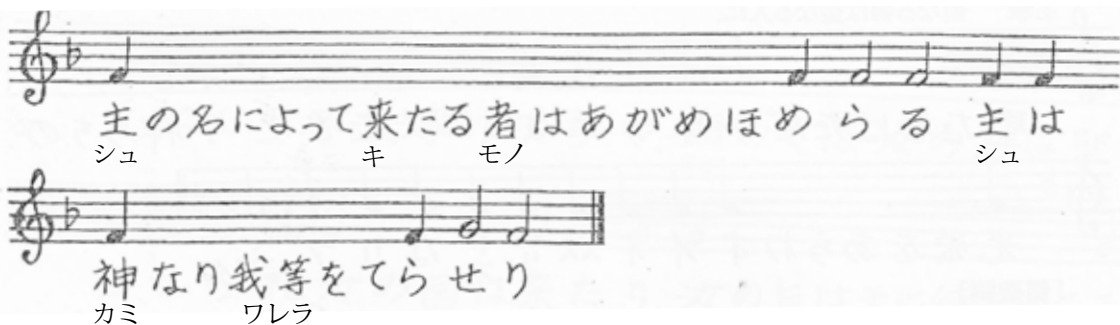


〈領聖を待つ〉
 古代教会では神品も信徒もひとつのテーブルを囲んで領聖が行われたが、キリスト教が国教となり、大きな聖堂が建てられると、まず神品が至聖所で領聖し、のちに信徒が聖所で領聖するようになった。そのため神品領聖の時間を埋める歌（誦経）が行われるようになった。神品領聖を待つときの歌に指定はないが、喜びの宴の頂点、神に出会い、交わるときにふさわしい歌を選ぶ。領聖予備規程を読んでもよい。

第 148 聖詠
 人が神への讃美を回復すると、すべての被造物が主を讃め揚げる。

司祭 神を畏るる心と信とを以て、近づき来たれ、

主の名によって来る者は讃美せられる。主は神である。今、ここに居られる。(スラブ語原文)「我等を照らせり」は「神がここに居られる」のヘブライ語版ロシア語聖書からの訳。



聖ニコライは旧約聖書(聖詠)の翻訳において正教伝統の七十人訳ギリシア語聖書ではなくヘブライ語原典から翻訳している。理由は定かではない。

【領聖祝文】

主^{しゅ}や、我^{われ}信^{しん}じ、かつ承^うけ認^{みと}めて、爾^{なんじ}を^{じつ}実^{じつ}にハリス^{せい}トス^{かつ}生活^{かみ}の神^{かみ}
の^こ子^{ざい}、罪^{ざい}人^{にん}を救^{すく}うが^よた^{きた}めに^{もの}世^{しゅう}に^{ざい}来^{にん}りし^{われ}者^{われ}とな^{われ}す、衆^{しゅう}罪^{ざい}人^{にん}の^{うち}うち我^{われ}
第^だ一^{いち}なり、

また^{しん}信^{しん}ず、これ^{なんじ}は^{しじょう}す^{たい}な^{なんじ}わ^{なんじ}ち^{なんじ}爾^{なんじ}が^{しじょう}至^{たい}浄^{たい}の^{たい}体^{たい}、これ^{なんじ}は^{なんじ}す^{なんじ}な^{なんじ}わ^{なんじ}ち^{なんじ}爾^{なんじ}が^{なんじ}
至^し尊^{そん}の^ち血^ちなり^ちと、ゆ^{なんじ}え^いに^い爾^{われ}に^{あわ}祈^わる、我^わを^じ憐^{じゅう}れ^{じゅう}み、我^わが^{じゅう}自^{じゅう}由^{じゅう}と^{じゅう}自^{じゅう}由^{じゅう}
な^{ことば}ら^{おこな}ず^しして、言^しと^し行^しい^しにて、知^おると^か知^しら^しず^しして、犯^おし^かし^し諸^{しよ}罪^{ざい}を^{ゆる}赦^{ゆる}
し^{たま}え、

なら^{われ}び^{てい}に^{ざい}我^{なんじ}に^{しじょう}定^き罪^{みつ}なく、爾^うが^{つみ}至^{ゆる}浄^{ゆる}なる^{ゆる}機^{ゆる}密^{ゆる}を^{ゆる}領^{ゆる}けて、罪^{ゆる}の^{ゆる}赦^{ゆる}しと
永^{えい} 生^{せい}と^うを^う得^うる^うを^うい^うた^うさ^うせ^うた^うま^うえ「ア^うミ^うン」

神^{かみ}の^こ子^こや、今^{いま}我^{われ}を^{なんじ}爾^{なんじ}が^き機^{みつ}密^{みつ}の^{えん}筵^あに^あ與^もる^い者^いと^いして^い容^いれ^いた^いま^いえ、け^いだ
し^{われ}我^{なんじ}爾^{なんじ}の^あ仇^あに^あ機^き密^{みつ}を^つ告^つげ^つざ^つら^つん、

また^{なんじ}爾^{なんじ}に^{せつ}イ^{せつ}ウ^{せつ}ダ^{せつ}の^{せつ}ご^{せつ}と^{せつ}き^{せつ}接^{せつ}吻^{せつ}を^{せつ}な^{せつ}さ^{せつ}ざ^{せつ}ら^{せつ}ん、す^うな^うわ^うち^う右^う盗^{とう}の^うご^うと
く^{なんじ}爾^うを^{みと}承^{しゅ}け^{なんじ}認^くめて^にい^{われ}う、主^{われ}や、爾^きの^お国^おに^おいて^お我^{われ}を^き記^お憶^おせ^およ^おと、

主^{しゅ}や、祈^いる^{なんじ}爾^{せい}の^き聖^{みつ}なる^う機^う密^うを^う領^うくる^うは、我^わが^{しん}た^{あん}めに^{しん}審^{しん}案^{あん}あ^{しん}る^{あん}いは
定^{てい}罪^{ざい}とな^{ざい}ら^{ざい}ず、す^れな^れわ^れち^れ霊^れ体^{たい}の^い醫^いとな^いら^いん^いこ^いと^いを、ア^いミ^いン

【信徒領聖】

ハリス トスの せいたい を 受け、 不死 の いずみ を のめよ
ウ フ シ

ア リ ル イ ヤ、ア リ ル イ ヤ、ア リ ル イ ヤ

<豆知識>
 「ハリストスの聖体を受け」はもともと復活祭の領聖詞であったが、小復活祭である日曜日にも歌われるようになった。

<アラスカ調>

ハリス トスの せいたい を 受 - け 不 死 の
ウ フ シ

い ず み を 飲 め よ
ノ

ア リ ル イ ヤ ア リ ル イ ヤ ア リ ル - - - イ ヤ

<モスクワ調>

ハリス トスの せいたい を 受け 不 死 - の いずみ を 飲めよ
ウ フ シ ノ

<同スラブ語>

Те- ло Хри- сто- во при- и - ми - - - те
チエ ロ フリ スト ヴォ フリ イ ミ チエ

Ис-точ- ни- ка без-смерт-на- го вку- си - - - те
イ ス トチ ニ カ ベス スマールト ナ ゴ フク シ チエ

ア リ ル - - イ ヤ ア リ ル -イ ヤー ア リ ル -イ ヤ

23. すでに真の光を見 領聖感謝

復活祭期（復活祭後昇天祭前週まで）は「すでに真の光」に代えて「ハリストス死より復活し…」を1回歌う。

そこに居られるハリストスすなわち真実の光にまみえ、領聖によって天の聖神を受け、正しき信仰を得て、至聖三者を拝むと歌う。

「正しき教え」は祈禱書では「正しき信」。

司祭はポティールで参拝者を祝福し、輔祭（なければ司祭）が残った聖体血を食べ尽くす。

<口語訳>

主よ、私たちの口をあなたの光栄を歌う讚美で満たしてください。なぜなら、あなたは私たちを「生命」をもたらすあなたの聖なる機密に与らせてくださったから

信徒が領聖して歌うことを前提としている。

司祭 （衆に祝福し、高声）神や、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降せ

すでに真マコトのひかりを見ミ天テンのせいしんをうけただしき

おしえをえ信て、わかれざるせいサン三者シヤをおがむ、かれ

我等をすくいたまえばなり
ワレラ

司祭 今も何時も世世に、

アミン 主シュや 爾ナンジの光栄をうたわん に、ほめ歌を以て
ウタ モツ

わが口クチに満たしめたまえ、生命イノチをほどくす聖なる 爾セイ

の機密キミツを受くるを、われらにゆるせばなり、いのる

我等を潔イサギヨきにまもり、日々に 爾ナンジの道をならわしめ
ワレラ

たまえ、ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ

24. 平安にして出づべし 解散派遣

輔祭 謹みて立て、神聖、至浄、不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの
聖機密を領けて、宜しく主に感謝すべし、

主 あわれめよ
主 あわれめよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、

輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の
身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

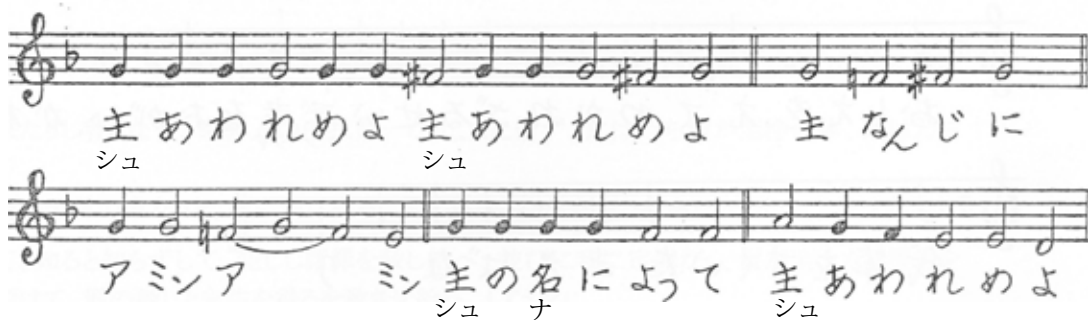
主 なんじに

司祭 蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神^oに献ず、今も何時も世世に、

アミン、アミン
主の名によって
主 あわれめよ

司祭 平安にして出づべし、

輔祭 主に祷らん、



【升壇外の祝文】

司祭 爾を讃揚する者に福を降し、及び爾を恃む者を聖にする主や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教会の充満を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が申請の力を以て彼等を光榮し、及び我等爾を恃む者を遺すなかれ、爾の世界と爾の諸教会と諸司祭と、我国の天皇及び国を司る者、及び爾の衆人為に平安を賜へ、蓋凡その善なる施し、凡その全備なる賜は、上より爾光明の父より降るなり、我等光榮感謝伏拝を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に



司祭 願くは主の降福は、その恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、

アミン

「平安にして出づべし」
領聖して神の平安を受けた信徒は「神の国の証人」、人々を教会へ招く使命に派遣される。
ローマ・カトリック教会の「ミサ」の語源。(Ite, missa est)

<豆知識>
升壇とはイコノスタスの前の高い部分(ソレヤ)が円形に張り出している部分。かつては階段のついた説教壇であった。
司祭が升壇から降りて祝福し、解散を命じる。かつてはここで聖体礼儀が終わった。

司祭 ハリストス神我等の恃みや、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

復活祭期、通例として司祭が「ハリストス死より復活し死を以て死を滅ぼし」まで歌い、聖歌が「墓に在るものに生命を賜えり」を歌い、「主憐れめ・・・」以下を続ける。

光榮は父と子と聖神に歸す今もいつも世々にアミン
コウエイ チチ コ セイシン キ イマ ヨ ヨ

主あわれめ主あわれめ主あわれめよ ぶくをください
シュ シュ シュ

「発放」とは「解散」の意味で、集まりの解散派遣をさす。司祭「高声」と混同されていることがあるが、意味が異なる。

【発放詞】

司祭 ハリストス我等の真の神は、その至浄なる母、光榮にして讚美たる聖使徒、我等の聖神父コンスタンティノポリの大主教金口イオアン、聖（某）（本日聖人）及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

アミン

25. 十字架接吻と万寿詞

<豆知識>

「万寿詞」

祈りの最後に国の主権者と私たちの教会を司る主教のために「いくとせも」を祈る。ビザンティン帝国時代に皇帝に長寿を祈った伝統から。

アミン かみやわが国の天皇を、および 国を
クニ テンノウ

つかさどるもの 我等の府主教 ダニイル
ワレラ フシュキョウ

および ことごとくの正教のハリストティアニンらを、いく

とせにもまもりたまえ

【十字架接吻 アンティドール】

参拝者は司祭の持つ十字架に接吻し、感謝の捧げ物から取り分けた聖パンの小片をいただく。

26. 領聖感謝祝文

領聖したことへの感謝の祈りを唱える。

生命を施す秘密の恩賜（ご聖体）を領けたあと、感謝して、神に向って誦する。

神や光栄は爾に帰す、神や、光栄は爾に帰す、神や、光栄は爾に帰す、

<第一祝文>

主我が神や、爾我罪人を棄てずして、尚爾の聖なる機密に與る者と致させ給うを爾に感謝す、
我堪えざる者に爾が至浄なる天の賜を受くるを容し給うを爾に感謝す、主宰、人を愛するの
主、我等のために死して復活し、我が霊と体とに恩を与え、これを聖にするがために、我等
にこの恐るべくして生命を施す機密を賜いし者や、求む、この機密は、我にも霊と体とを癒
し、凡その敵の害を驅り、我が心の目を明かにし、我が霊の力を平安にし、恥を得ざる信とし、
偽りなき愛とし、睿智を充たし、爾の誠めを守らしめ、爾が神妙の恩寵を益し、爾の国を嗣
がしむる者となるを得せしめ給え、我はかくの如く、この機密にて爾の成聖に護られ、常に
爾の恩寵を思い、また己がために生活せず、すなわち爾我が主宰及び恩主のために生活し、
もって、永生の望をいただき、この世を離れて、永遠の息、かの祝する者の絶えざる声、及び
爾が顔の言いつされぬ美善を見る者の限りなき楽しみの所に至らん、蓋ハリストス我が神や、
爾は爾を愛する者の真の望と言い盡されぬ楽しみなり、凡そ造を受けし者は爾を世に讃め
歌う、「アミン」

<第二祝文> 聖大ワシリーの原文

主宰ハリストス神、万世の王、万物の造作者や、凡そ我に賜いし所の諸善、かつ生命を施
す至浄なる爾の機密を領けさせ給ひしを爾に感謝す、また爾に祈る、善にして人を愛する主
や、我を爾が庇の下に、爾が翼の蔭に護り、我に呼吸の絶えんとするに至るまで、潔き良心
をもって、当然に爾の聖体聖血を領け、もって罪の赦しと永生とを得るを致させ給え、蓋
爾は生命の糧、成聖の泉、諸善を賜う主なり、我等爾と父と聖神とに光栄を献ず、今も何時
も世に、「アミン」

<第三祝文> 「メタフラスト」の原詩

我が造成主甘んじて己の身を糧として我に与え、火にして不当者を焚く者や、求む我を焚く
なかれ、すなわち吾が百体諸節心腹に入り、吾が諸罪の救を焚き、霊を浄め、思を聖にし、
筋と骨とを固め、五官を明かにし、吾が全身を、爾を畏るる畏れに釘うち、常に我を庇い、
我を保ち、我を害する諸の行いと云より護り、我を浄め、我を滌ひ、我を飾り、我を
治め、我を啓き、我を照し、我がまた罪の住所たらずして、独り爾が聖神の住所たるを顕し、

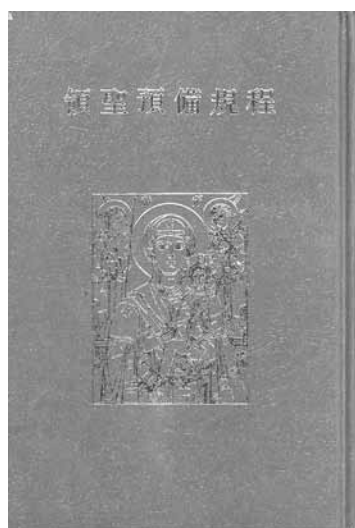
凡その悪者、凡その^{よく}慾は、我、聖体^{なんじ}の入るに依りて爾の家となりし者より逃ぐるること、火より逃ぐるが如くならしめ給え、我^{てんたつしや}轉達者として、諸^{もろもろ}の聖者^{せいしや}、諸品^{しよひん}の神使^{しんし}、爾^{なんじ}の前驅^{ぜんく}、智慧^{ちえ}なる使徒^{しと}および爾^{なんじ}が無玷^{むてんしじょう}至浄^{なんじ}の母を爾に進む、慈憐^{じれん}の主我がハリストスや、彼等の祈祷^いを容れて、爾^{なんじ}の役者^{えきしや}を光の子となし給え、蓋^{たま}、独り至善^{けだし}の主や、爾^{なんじ}は我等^{ひと}の靈^{しぜん}の成聖^{なんじ}と光明^{たましい}なり、我等皆神と主宰^{よろ}に宜^{ごと}しき所の如く、日々に光榮^{なんじ}を爾に献ず、

<第四祝文>

主イイスス・ハリストス我等の神や、願^{なんじ}くは爾^{せいだい}の聖体は、我がために永生^{えいせい}となり、爾^{なんじ}の尊血は、罪^{ゆるし}の赦とならん、願^{なんじ}くはこの感謝^{よろこび}の祭は、我がために^{そうけん}喜悅と^{あんらく}壯健と安楽とならん、また畏^{おそ}るべき爾^{なんじ}が再度^{こうりん}の降臨^{ざいにん}の時、我罪人^{なんじ}に、爾^{なんじ}が光榮^{なんじ}の右に立つを得せしめ給え、爾^{なんじ}が至浄^{しじょう}の母と諸聖人との祈祷によりてなり、

<第五祝文> 至聖生神女に捧ぐ

至聖^{しせい}なる女宰^{じょさい}、生神女^{しょうしんじょ}、吾^{くら}が^{たましい}昧^{たのみ}みたる^{かくれが}靈^{なぐさめ}の光^{よろこび}、吾^たが^{なんじ}憑^{しじょう}恃^{しぜん}とおおいと^ち避^う所^うと^{たま}慰^{なんじ}藉^{なんじ}と^{なんじ}歡^{なんじ}喜^{なんじ}や、爾^{なんじ}が我堪^たへざる者^{なんじ}に、爾^{なんじ}の子^{なんじ}の至浄^{しじょう}の体^{しぜん}、至^ち尊^うの血^うを^う領^うくる者^うとなるを得^{たま}せしめ給^{なんじ}いしを爾に感謝^{なほ}す、猶^{まこと}祈^{まこと}る、真^{まこと}の光^{まこと}を生^{まこと}みし者^{まこと}や、吾^{まこと}が心^{まこと}の目^{まこと}を明^{まこと}かにせよ、不^{いずみ}死^{いずみ}の泉^{いずみ}を生^{いずみ}みし者^{いずみ}や、我^{つみ}罪^{つみ}に殺^{つみ}されたる者^{つみ}を生^{つみ}かし給^{つみ}え、慈^{たまた}憐^{たまた}なる神^{たまた}の慈^{たまた}愛^{たまた}の母^{たまた}や、我^{あわれ}を憐^{あわれ}み、吾^{あわれ}が心^{あわれ}に感^{あわれ}動^{あわれ}と悲^{あわれ}痛^{あわれ}、吾^{おもい}が思^{けんそん}に謙^{けんそん}遜^{けんそん}、吾^{いねん}が意^{いねん}念^{いねん}により^{いねん}虜^{いねん}より回^{いねん}さるるを^{いねん}賜^{いねん}い、我^{かえ}に呼^{かえ}吸^{かえ}の絶^{かえ}えんとするに至^{かえ}るまで、罪^{たま}を獲^{たま}ずして、至^{たま}浄^{たま}なる機^{たま}密^{たま}の成^{たま}聖^{たま}を受けて、靈^{れいたい}体^{れいたい}との醫^{れいたい}を得^{れいたい}るを^{れいたい}致^{れいたい}し、ならびに我^{いた}に痛^{いた}悔^{いた}と承^{いた}け認^{いた}めとの涙^{いた}を^{いた}与^{いた}えて、生^{いだし}涯^{いだし}爾^{いだし}を^{いだし}歌^{いだし}頌^{いだし}讚^{いだし}榮^{いだし}せしめ給^{いだし}え、蓋^{けだし}爾^{けだし}は世^{けだし}世^{けだし}に讚^{けだし}美^{けだし}と光^{さんび}榮^{さんび}とを満^{さんび}ち被^{さんび}る、「アミン」



領聖預備規定

信徒は領聖の準備として『領聖預備規定』を唱え、領聖後は『領聖感謝祝文』を唱えることが勧められている。大阪教会では領聖祝文は聖堂の左前方で誦経者が唱える祈りを聞く。

『領聖預備規定』頒布品コーナーで。